

# ☆えほん☆

## 「ねこどけい」

きしだえりこ/作 やまわきゆりこ/絵  
福音館書店 E3ヤマ

ことちゃんの家には、はと時計がある。「くく」と鳴くと、ねこのねねこは、はたと遊びたくなる。とうとうねねこは、はと時計をこわしてしまい、はと時計は修理に出されることに…。



# あたらしい本のコーナー

## 「まんげつの夜、どかねこのあしがいっぽん」

朽木祥/作 片岡まみこ/絵  
小学館 E3カタ

ノネコは山でひとりぼっちだった。だれもたすねて来てくれないので、さみしくなって山をおりてみると犬に出くわしてしまった。思わずどかんに逃げ込んだが、ぴったりはまりこんでそこから出られなくなった。

## 「なんでもだっこ！」

スコット・キャンベル/作  
せなあいこ/訳 評論社 E4キヤ

ぼくは、むてきのだっこロボ。しゃきーん！ みんなぼくのだっこでげんきがでるよ。だっこロボにだっこできないものはない！ピザでエネルギーをほきゅう、またしゅつどうだ！ でも、へとへとになったときは…。



## 「むかし日本狼がいた」

菊池日出夫/文・絵  
福音館書店 E3キク

おばあちゃんがこどものころの話。このあたりにもおおかみがいた。春には3びきの子どもがうまれた。子おおかみは大きくなると、親とかりにでる。むかしは人もおおかみもさるもくまも、みんな山のめぐみで生きてきた。

# ☆よみもの☆

## 「シナモンのおやすみ日記」

小手鞠るい/作 北見葉胡/絵  
講談社 931コテ

さやかママからおみやげにもらったノート。ページのすみっこに書かれた猫は、2年前とつぜんいなくなったシナモンにそっくりだった。なつみは夜ねる前に、ノートにシナモンに向けて日記を書き始めた。すると、シナモンから返事が。



## 「テオの「ありがとう」ノート」

クロディーヌ・ル・グイック=プリエト/著  
坂田雪子/訳 PHP研究所 932ルク

くるま いすで生活しているテオは12歳の男の子。あるときから「ありがとう」を言わないことにした。人よりたくさんお礼を言うのが不公平に思ったから。なんでも人に頼むのをやめて、自分でやるようにがんばったけど、「ありがとう」の数は減らない。

## 「十三番目の子」

シヴォーン・ダウド/作  
パム・スマイ/絵 池田真紀子/訳  
小学館 932タウ

あす 明日13歳になる少女ダーラ。同じ母親から生まれた十三番目の子供である彼女は、誕生日に死ななければならぬ。村のおきてに従い、神へのいけにえになるのだ。そこに現れた見知らぬ少年バーン。彼はダーラの双子の兄弟だった。



## 「オイレ夫人の深夜画廊」

齊藤洋/作 森田みちよ/画  
偕成社 931サイ

ゆき 雪で列車が止まったため、知らない町で途中下車することになったフランツ。その町で入ってみた店でフランツは、子どものころ、近所のグライリッヒさんにあげたはずの木彫りのライオンと出会う。

# ☆しらべもののほん☆

## 「やさいの花」

埴沙萌/写真 嶋田泰子/文  
ポプラ社 47

ゴボウの花を知っている？ゴボウはキクのなかまで、花はアザミにている。レタス、オクラ、アスパラガス、よく知っているやさいにも花がさき、いのちをつなぐという大事なやくわりをになっている。



## 「よみがえれアイボ」

・ロボット犬の命をつなげ・  
今西乃子/著 浜田一男/写真  
金の星社 54

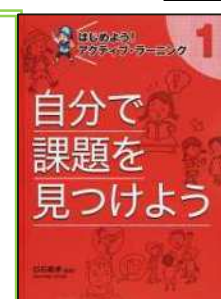
アイボは自分の意志で動いたり、成長する犬のロボット。持ち主の中にはただの家電ではなく、家族の一員と考える人もいる。ロボット犬の修理をとお通して、ロボットの命、ロボットの心が見えてきた。

## 「はじめよう！」

「アクティブラーニング」(全5巻)  
ポプラ社 37

べんきょう 勉強や毎日の暮らしで知りたいことがあったら、自分で調べたりみんなと一緒に考えたりしてみよう。それを「アクティブラーニング」というよ。

「自分はずいぶん左利きなんだろう？」  
「上手な犬のしつけ方は？」など、自分のなかの「ハテナ？」を「なるほど！」に変えてみよう！



## 「イルカと友達になれる海」

・大西洋バハマ国のドルフィン・サイト・  
越智隆治/写真と文 小学館 489

たいせいよう 大西洋の白いすなの美しい海にくらすタイセイヨウマダライルカ。人懐っこいこのイルカを愛する人たちが、世界中からこの海に集まってくる。人が乗った船がやってくると、イルカたちは船に近づいて、みんなが海に入ってくるのを待ち受ける。